学校番号	１０８

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	(学)日本史演習	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書							
副教材等	図説　日本史通覧　（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

国際社会との関連を重視される中、広い視野から現代とのつながりを意識し、多面的・多角的に歴史的事象を考察する。その際、「資料を読みとる」や「主題を設定し追究する学習」を適宜取り入れる。また、個別の事象にとらわれ、偏りがないよう留意し、日本文化の学習については生活文化や民俗学の視点も踏まえ、その特色と形成過程を総合的に考察する。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】織豊政権から江戸時代における社会や政治制度について、対外関係の変化等を踏まえ、どのように構築され発展していったのかを理解することができている。
【思考力、判断力、表現力等】江戸時代の社会や文化について、当時の時代背景を考察し、武士・町人・農民の生活等の違いを比較・分析することができている。
【学びに向かう力、人間性等】当時の社会と現代の社会を比較し、自ら現代の社会の課題を発見し、解決の方法を考察することができている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	現代の諸課題の形成に関わる織豊政権から江戸時代における時代,文化の歩みについて理解している。 諸資料から歴史や現代の諸課題に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	現代の諸課題やその背景にある歴史に関わる諸事象について、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりしている。考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	現代の諸課題やその背景にある歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、これからの世界を担う公民としての自覚などを深めている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	織豊政権	・大航海時代を踏まえ、ヨーロッパ人の東アジアへの進出と影響を考察する。 ・織田信長・豊臣秀吉の天下統一事業の特色と意義について理解する。	a:キリスト教の伝来、南蛮貿易を踏まえ、ヨーロッパとの接触と影響について理解している。幕藩体制とのつながりに着目して、検地や刀狩にみられる兵農分離策を踏まえて、織豊政権の統一過程とその政策を理解している。 b:海外文化との接触,豊臣政権の全国統一過程について、当時の時代背景を考察し、その必要性を考えることができている。 c:当時の海外文化との接触がこの後の時代にどのように影響し、また現代に生きる我々にどのような影響を及ぼしているのかを主体的に考察することができている。	定期考査 確認テスト	定期考査 ノート提出 ワークシート	ワークシート 振り返りシート
	桃山文化	・新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。	a: 幅広い国際性を持ちつつ、生活文化の中にとけ込んでいったことについて、秀吉の朝鮮侵略や南蛮文化にも着目してりかいできている。 b:大名などの武士社会だけでなく、町衆の生活や文化を考察し、なぜそのような文化が受け入れられたかを時代背景とともに考察することができている。 c:現代まで続く桃山文化の精神を考察し、我々の生活のどのようなところに根付いているのかを考察することができている。	定期考査 確認テスト	定期考査 ノート提出 ワークシート	ワークシート 振り返りシート

2学期	幕藩体制の成立　幕藩社会の構造	・江戸幕府の成立による幕藩体制の確立を政治・経済・社会面を、多面的・多角的に理解する。 ・江戸幕府の鎖国政策について、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について理解する。	a: 幕藩体制の特質について、幕府と藩・朝廷・寺社との関係、農村・農民や町・町人への支配体制、封建的身分秩序の形成、経済的基盤などを踏まえて理解している。初期外交から鎖国までの過程について、琉球・朝鮮・蝦夷地との交易など、東アジアの動向と関連させて理解している。 b:封建的身分秩序の形成について、その必然性を考察することができている。織豊政権から一転、鎖国政策を選択した幕府の政策についてその必然性を考察することができている。 c:武士を中心とした階級社会と、現代の日本国民の社会を比較し、その違いについて主体的に考察することができている。	定期考査 確認テスト	定期考査 ノート提出 ワークシート	ワークシート 振り返りシート
	幕政の安定　経済の発展　元禄文化	・17 世紀後半から 18 世紀前半までの江戸幕府の安定期、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ・幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえ、理解する。 ・経済の発展と関連して町人文化が形成された事について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。	a: 文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治を取り上げ、幕政の安定過程を理解できている。農具の開発による農業生産の進展、産業の発達と多様化、交通の整備や貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、諸産業の展開を理解できている。町人の経済的繁栄や商業活動の拡大など経済の発展や、儒学などに着目して、文学・学問・美術を踏まえて理解できている。 b:大きな動乱なく安定した政治体制が続いていく中、経済政策と呼べる政策がどのような背景の中生まれていき、当時の武士、庶民、農民の生活にどのような影響を与えたか考察することができている。 c:当時の経済の成長と現代の経済の成長とではどのような違いがあるのか、比較して考察することができている。	定期考査 確認テスト	定期考査 ノート提出 ワークシート	ワークシート 振り返りシート

	幕政の改革　幕府の衰退	・農村や都市が変化し、幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が対処した諸改革についての特徴を理解する。 ・欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化や、それに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。	a:　・幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保から寛政の改革にかけその諸政策について理解している。列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や天保の改革における失政を踏まえて、幕府の衰退を理解している。 b:当時の国際情勢の変化の中、幕府の政策の方針、諸藩の考え方の変化などを比較し、考察することができている。 c:諸外国の接近による幕府の動揺はどれほどのものであったか、当時の時代背景を中心に考察し、考えを述べることができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 ノート提出 ワークシート	ワークシート 振り返りシート
3学期	化政文化	・学問・思想・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸はもとより地方文化の成長にも留意して考察する。	a:　農村の家内工業からマニュファクチュアなど近代工業の芽生えが始まり、諸藩の財政・軍事再建から雄藩が出現するにあたっての過程を考察できたか。文化における近代化の芽生えを理解している。 b:諸藩の討幕の方針に至る背景である近代工業の発生を、他国の事例と比較し考察することができている。 c:欧州の近代工業化と日本の近代工業化の違いを主体的に考察し、自分の考えとして述べることができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 ノート提出 ワークシート	ワークシート 振り返りシート

	幕藩体制の崩壊と近代国家の成立過程	・国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ・江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。 ・幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。 ・近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	a:欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解している。 b:日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。 日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。 c: 日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。 幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート課題	 レポート課題 ワークシート提出物

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度